

一般社団法人日本沖縄政策研究フォーラム

学校マスコミが絶対教えない

首里城の歴史

～首里城を救った男たちのドラマ～

【昼の部】

令和元年 **12月18**日(水) 14:00～
研修室2

◎場所：

IKÉ Biz としま産業振興プラザ

3F 男女平等推進センター (旧勤労福祉会館)

【夜の部】

令和元年 **12月18**日(水) 18:30～
研修室2

◎会場分担金＋資料代＝1,500円

一般社団法人日本沖縄政策研究フォーラム

理事長 仲村覚



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan

仲村覚
2019/12/18

石垣市議会

自治基本条例存続へ

1票差、与党の足並み乱れ

石垣市議会（平尾秀之議員）12月定例会は11日の最終本会議で、議員提案の自治基本条例を廃止する条例案を採決し、賛成10、反対1の賛成多数で否決した。同条例は存在せず。与党は「活動家や市政にアタクをスエスするものもの」だ。（提案者の石垣亨氏）などと同条例の放埒性を指摘したが、足並みが乱れ、同条例を廃止する全国初の事例は実現しなかった。野党は「不備があるなら見直すべきで、廃止は早急すぎる」と訴え、結束した。【6・7欄関連】

石川勇作氏は二つの案綱が本当に必要ななら、他市

が強調して期定するはずだが、そうならない、ない」と述べた。

採決では野党系人全員と、毎党で公明の石川達也氏、会派「未来」の賀底川一氏が反対に回った。

中山義隆市長は議会閉会后「議会の投票結果を尊重したい」と文書でコメントした。

毎党は、同条例の「市民」の定義があいまいなため、同条例を利用して活動家が市政に影響を及ぼし得ることを危惧。野党は、市民グループが同条例で規定された住民投票制度を組織し市を操縦することから「廃止の動きは住民投票ぶっし」と主張していた。

八重山日報
THE YAEYAMA NIPPO 第14288号 沖縄本島版

お問い合わせ

●社・監事の問合せ E-mail:sales@
株式会社新井 82-2403
TEL E-mail:ad_sales@
新井 82-7059
●監査役・記事に関する問合せ E-mail:news@
新井 82-1738 E-mail:news@

電報は日本オンラインで
http://www.shinbun-online.com

【本社組合案内】
本社
0988 82-2403
FAX 82-8122
E-mail:info@

おやうろしは天下通
@yayayama-nippo.co.jp



自治基本条例に廃止条例に起立して賛成する与党（右側）と、反対する野党（16日午後、石川市議会）

内閣委員は「今こそ改めて自治基本条例を踏み直す価値がある」と述べた。

賛成討論した与党の友
寄水三氏は「この条例が
なぐとも、この市でも
市民主導の市政を運営を
している。全国的にも、
この条例を制定する自治
体はほとんどなくなつて
いる。この条例の意義を

堀坂芳彦氏は「条例のマイナーチェンジではなく、フルモデルチェンジするために廃止し、時代に合った新たな条例をつくるべき」と提言した。

評価割れる自治基本条例
課題放置なら理念画餅に

解 說

解説 石組市の自治基本条例は、2009年、市議会が3回審議し、可決された。10年後には1票差の逆転で、再び廃止を免れた。市民の最も基項であるまちづくりの基本理念を定めるが、議会には大

氏は、市議員の意見を尊重した結果として「この条例は『あまり意識していない』という返事がほとんど」と述べ、同条例が現実には適用されていない事情を指摘した。

民の事情は人々、住民の買収で内閣英断氏は「市にも在外外国人がいない」と言明可能である。同条例では市に「必要事情を認める権利」を明記。委員会や審議会などを通じて「活動的な市政」にアクセスする道をつくるものだ（与党の石垣亨氏）という懸念がある。

また、条例存続を求める野党は、そもそも「市民の意見を問明視している」という点で、外国人参政権の付与につながるのではないかと懸念している。

野党の主張は、議員の

選挙区を創設する」として、善治存続が自己目的化する可能性にも通じ、石垣氏は「善治会が議会の主であるのか」と反論した。

同条例は最高裁と認められるが、憲法には理念を定めた「理念条例」も憲法第三十條と皇族が指し示すように、理念と現実のはざまで、同条例の意義はまたほろびが散らされている。

約10年前の制定時と同様、多くの市民が納得する運用はとあるべきか、という疑問も生じ、論は、いま、善治の存在自体に与える政治の具文化と対峙した。

石垣市でも議論した「自治体条例に反対する市民の会」の村山善治会長は、善治廃止に反対する動向を見ると、自派配属反対派や左派メディアを主として、外国に輸出の人たちにとってこの条例が大変な武器であることが判明でき、日本列島の国境の一角が削れている状態だと危機感を示した。

氏は、市職員の意見を聴

民の事業に及ぶ、住民の行動を妨げ、国民の権利を侵害するものとして内閣英断氏は「市」を在外外国人に認めることは不可能である。同条項では市民に市政に参加する權利（必要なる情報を知る権利）などを明記。委員会や審議会などにを通じて活動するが市政はあく

野党からは、同条項のこの一語に於ては、同条項そのものの廢止提議が、同条項そのもの

[illegible]

政策研究フォーラム
Policy Research Forum

自治基本条例 与党に誤算 支持広がらず 廃止条例、2氏が野党に同調

自治基本条例の廃止を
目指した石垣市議会の与
党は、多数を確保しなが
ら内部をまとめ切れず、
廃止への支持も広がらな
かった。自民党系の9人
は結束したものの、公明
会派、未来会派からそれ
ぞれ1人が野党に同調し
た。今後も市政の重要問
題で結束が崩れる可能性
は否定できず、中山義隆
市政は議会運営に不安を
残した形だ。

公明の石垣達也氏は、
当初から同条例の廃止で
はなく見直しを主張し、

廃止条例に反対する姿勢
を明確にしていた。

議会後にコメントを出
し、同条例の「市民」の
定義に疑義を示した上で
「二度制定された条例は、
改廃に関しては十分な議
論や審議がなされるべ
き。市民の定義をはじめ、
その他あいまいな箇所の
見直しも含め議論を深
め、多くの市民の理解を
得ることが大切。市民の
権利が政争の具になって
はならない」と訴えた。

条例に代わる新たな条例
をつくることが廃止の条
件」と明言。与党内で新
たな条例を制定する動き
がないことに不満を募ら
せていた。

与党にとって、石垣、
箕底氏が退席を選択せ
ず、明確に反対を表明し
たことが誤算だったと言
える。

ただ、未来からは後上
里厚司氏が廃止条例に賛
成に回り、箕底氏とは対
応が割れた。

与党のもつ一つの誤算
は、野党で唯一の保守系

である砂川利勝氏が、革
新系野党と歩調を合わせ
て廃止に反対したこと
だ。与党は当初、砂川氏
について「こちらについ
てと票読みしていた。

与党の一人は、砂川氏
が与党に同調しなかった
ことについて「中山市長
への反発があるのかも知
れない」と肩を落とした。



年(令和元年)11月10日 日曜日 1版 総合 (2)

首領城
識者の見方
再建

「日本の中の沖縄」を懸念

県民・県人主体の復元を

首三城
識者の見方
再建

民衆の城取り戻す事業に

国は戦争の贖罪意識必要

首里城再建
県民主体で

沖縄VS日本政府の対立構図をつくろうとしています。



宮田 裕 氏(沖大・沖国大特別研究員)

県の管理責任と予算は別

沖繩への国支出が始まつたのは一九六二年に当時の米大統領ケネディによる沖縄新政策で日本政府に対して経済負担を求めたところだ。63年の予算で援助費が計上され、沖縄が日本に復帰する迄年までに投じられたのは国家予算のわずかに0・2%だ。復帰して初めての他の都道府県並みに予算が計上された。

更に二年以上、責任を持つて管理できていたのか検証する必要がある。ただ管理責任と予算措置は別問題だ。再建事業は国が責任を持って予算措置をするのが当然だ。そもそもの所有している財産として国が責任を持っている財政を要するのが当然だ。管理を行なっている県が予算を充てるような話ではない。

なく現実を見るべきだ。国が本年度予算で、首里城公園と海洋博物館の整備・維持管理に充てているのは合計27億9千万円だ。財源が乏しいのは周知の事だ。現実に目をつぶる訳にはいかない。玉城博一知事がすぐ政府

沖縄の自立、国の責務

に協力をお願いしたと、仲間に語った。仲間は別格での予算措置を求めていることは要諦だ。国の責任で神機が困ったときには償って貰いたい、いかに自立経済につなげるかを考ふる姿勢は正しい。政治のリーダーとしていち早く動いたことは評価したい。

もちろん不安要素はある。神機関係者から内閣府に移ってから神機振興のありようは変わってきたからだ。基礎期間とリンクさせた「政治案件化」している異常な事象だ。今回の再建に向けた予算措置で政府の神機への向き合い方、本気度が問われる。周知は神機振興の基本方針を置くよう政府に求め続けるべきだ。



77年に「前田誠一郎の復讐」が出版された。前田誠一郎の復讐は復讐20周年を記念して92年に実現した。当時の大蔵省や中曽根内閣の抵抗は強かったが、自民党は戦後処理を断念し、全国民が事業実現を押し切った。自民党が前田復讐の要請に積極的に対応したのは、日本と中国の一体化を進める狙いがあった。



政府の実績づくり懸念

とを懸念していた。だが、現時点でその様子はない。手札として持つておく風意があるのではないが、リンク論を出すすなら、事業の後半になるほど原則から物を言ひにくくなる。事業を遂中で止める訳にはいかなくなるかたは、むしろ初めはリンクさせない。

地問題にリンクさせるより

ある。首里城再建は、安倍政権が初めて「沖縄」に寄り添える一機会になる。

安倍政権への印象が悪くない、2022年の次回知事選で首里城再建に向け政府とのパイプを宣言できる保守系候補に有利となる。すでに基盤を築きつつある。

一方、玉城無政はまだ明確な理念を発信していない。国主導の行き過ぎに歯止めを掛ければ、県民が求める首里城再建をできるかどうかは玉城アニメーションが打ち出す理念にかかっている。

三首相は衆院予算委員会では「観光振興」を挙げているが、国主導の再建では首里城の存続が最大の課題である。安倍政権の少子化対策と同様に、建設の話が上がった段階で、政府が普天間飛行場の名護市辺野古移設にリンクさせてくるのが出てきて手詰まりになつて

政府の実績づくり懸念

沖縄の理念 発信必要

國民の意見を集約し、広く共識を得られる壓力的な理念を定めなければならない。同時に素早く決める必要がある。政府側は既に迅速に行動しているから、沖縄の能力を挙げ、原爆半休一件で知恵を絞らなければならない。

今回の知事選がある當年は新たな沖縄復興計画が始まる年だ。首里城再建を語り、国が半島を負担するにしても、

復興が主権を握ることができなくなつた。次期復興計画の策定に向けた取組を始める。



イアン・ディティアーが機失した。「中韓の溝が失われた」との言葉が聞かされた。自分たちの魂は自分たちで守る」という意味では、国境も基地にも依存しない「国境なき国」(「自由経済」)の確立が、自衛隊の所有権も管理も誰が担うべきか。管理のノウハウを含めて行政の力を高める機会にもなる。



所有権も管理も県で

責任を問うのは本来転倒した。まずは火災原因の徹底的説明が先だ。その後には消防防止、防火体制を再建計画の中で検討すべきだ。考古学の専門家から、国家宝級の文化財を観光・商業施設に保管するのは危険との指摘もあった。懸念された400点余の国宝級、重要文

か」といふ批判が出ている。出火原因も被害の全貌も不明な段階で、百里城の再建・復元が本当に必要なところかといふ県民議論もなく、国に再建要請といふ之に連和感など警戒感を抱いた市民も少なくない。また再建要請の背景を想像すると、百里城といふ宝物、動が出るのではないか。

切野古の再建を巡り県と自治体立っている中で、百里城再建への支援が政治利用される懸念はある。「百里城再建を支援してあげた」と交感条件を出されぬように、しっかりとと線を引くことが大事だ。

切野古の状況を見れば現在、

自己決定権確立へ

て建設を進行してゐるとの印象が強い。だからこそ「神國のアイデンティティ」と言ふのであれば、國に横やりを入れられないうちに「神國の國は自分たちで作るべきだ」と國に頼らなうてもできやうな力を國民は持つてゐる、そういう気持ちも一つになつてきている。クラウドファンディングやある國內外のサポートもある。

安倍首相も政治利用を考へていないと信じていたが、これまでも辺野古移設に関して國民に寄り添つたとはなないし「丁寧な説明もしていない」言葉を素直に受け取れなくなつてゐる國民の心に寄り添つてほしい。

(談)



烏袋 鎮氏 (琉球大教授)

沖繩へ所有権返還必要

いつたん天皇返された土地の所有権を整理し、多くの国民に近代所有権を普及して与え、残された多くの土地を国有地とした。

近代化の第一歩とはいえ、天皇の名の下に実現してきた他府県と異なり、琉球王国の土地の明治政府による国有化は、その過程は、その文化を尊重し、継承し、発展させる権利は、極めて重要な人権であることに求められる。日本は、人権差別禁絶条約および国際自由権規約を批准しており、それを直接根拠として、権利保障を実現しなければならぬ。

これら委員会が普及している人権差別禁絶条約第1条と、自由権規約第1条は、いまだ未先住の人民としての自己決定の権利を保障することを要求している。その具体的な方法としての根拠を、先住臣に關

再建は国際法に基づく権利

する国連宣言（2007年）連合会決議の条文を用いて言及し、特に経済的、文化的および社会的発展に関する権利の特段の保障を要求している。

つまり、国際法で言うには、首里城の再建は、文化的な権利の実現として、沖縄の人々の集合的な権利、人民の自己決定の権利として促進されなければならぬことになり、また、文化的多様性の尊重の義務と文化的な権利の促進義務が日本政府にも課せられておりと考えるべきであらう。

首里城再建の手続き、資金、財政、所有権などの問題は、このような国際的な基準を基に解決されていくべきであらう。

つ。一面に問題（おわり）

「所有権移転も議論」

首里城再建 知事、国との協議意欲

玉城アニー知事は15日の
定例記者会見で、全換した
首里城の再建について「首
里城はウチナンチュのアイ
デンティティだ。国に
任せきりにするのではなく
、目に見える形で（再建
に）参画できる形をつくっ
ていきたい」と述べた。そ
の上で、首里城の所有権に
ついて「国が所有者で、国
の予算で復元してきたが、
め、国と協議を進めていく
と強調。「県民のちむく
るやアイデンティティは
失われていない。魂を込め
るために県がどう取り組む
かが大切だ」と述べた。
知事直轄の首里城復興戦
略チームに関しては「優先
事項、復旧・復興のロード
マップの作成、国との協力
関係の構築、県民会議の設
立も想定される。さまざま
な人が首里城の復旧・復興
に参画できる取り組みを進
めたい」と話した。
首里城再建のために県や
那覇市に寄せられた寄付金
の使途については「また具
体的には決まっていない。
今後の議論で県が取り組む
こと、国が取り組むことが
明確になってくる。早く方
向性を示せるようにしたい
」と語った。

てくる」と述べ、所有権について今後国と協議する考えを示した。

(2) 4、26面に關連
首里城再建を巡っては、
那覇市のふるさと納税を活用したクラウドファンディングにこれまで計約5億2300万円、県には約1億6600万円の寄付が寄せられている。

国に頼らず県の予算や寄付金で再建し、県が首里城の所有権を持つべきだとその声が県民から上がっていることに対し、玉城知事は「多くの県民の『自分たちの手でわった一首里城を再建したい』という思いを受け止

玉城知事所有権の移転の協議を否定、国主導で復元

玉城知事、首里城めぐる発言訂正 所有権移転「協議考えず」

2019.12.13 13:38 | 政治 | 地方自治

12月13日



反応



沖縄県の玉城デニー知事は13日の記者会見で、焼失した首里城の所有権を国から県に移転することに前向きな自身の発言を訂正し、謝罪した。「言葉足らずで皆さまに誤解を与えてしまったことについては率直におわび申し上げたい」と述べた。

首里城は現在、今回焼失した正殿など主要建築がある城郭内は国営公園、城郭外は県営公園となっている。玉城氏は13日の記者会見で「城郭内にある正殿などは、一義的には国が復元を行う。現段階において所有権移転に関して（国と）協議を行うかどうかについては考えていない」と説明した。

首里城の所有権をめぐり、玉城氏は11月の記者会見で

「所有権移転をどうするかということも議論していく必要があるだろうと思う」と発言。後に自身のフェイスブックで「『特に考えていない』と答えればよかった。言葉は難しいなあ。反省」と書き込んでいた。



玉城 デニー

11月15日 · 〇

11月15日

首里城の所有権移転について記者に訊かれた。「これからいろいろなことについて話合わなければならない」という意味で「議論する必要がある」と答えたら、まるで「移転を求めるために議論しなければならない」みたいな記事になっているらしい。

であれば「それについては特に考えていない」と答えればよかった。

言葉は難しいなあ。反省。

👍👎😬 132

コメント9件 シェア6件

👍 いいね!

💬 コメント

➦ シェアする

重山日報 - 沖縄本島版 -



代表質問
玉城知事は、焼失した首里城の再建計画について、県議会の本会議で、各派を代表して、玉城知事（自民・山内典久氏）が質問した。玉城知事は、焼失した首里城の再建計画について、県議会の本会議で、各派を代表して、玉城知事（自民・山内典久氏）が質問した。玉城知事は、焼失した首里城の再建計画について、県議会の本会議で、各派を代表して、玉城知事（自民・山内典久氏）が質問した。

玉城知事は、焼失した首里城の再建計画について、県議会の本会議で、各派を代表して、玉城知事（自民・山内典久氏）が質問した。玉城知事は、焼失した首里城の再建計画について、県議会の本会議で、各派を代表して、玉城知事（自民・山内典久氏）が質問した。玉城知事は、焼失した首里城の再建計画について、県議会の本会議で、各派を代表して、玉城知事（自民・山内典久氏）が質問した。

12月4日

代表質問

所有権移転、協議なし

県、首里城再建計画で

県議会（新里米古議場）は4日、11月定例会の本会議を開き、各派を代表して、玉城知事（自民・山内典久氏）が質問した。玉城知事は、焼失した首里城の再建計画について、県議会の本会議で、各派を代表して、玉城知事（自民・山内典久氏）が質問した。玉城知事は、焼失した首里城の再建計画について、県議会の本会議で、各派を代表して、玉城知事（自民・山内典久氏）が質問した。

玉城知事は、焼失した首里城の再建計画について、県議会の本会議で、各派を代表して、玉城知事（自民・山内典久氏）が質問した。玉城知事は、焼失した首里城の再建計画について、県議会の本会議で、各派を代表して、玉城知事（自民・山内典久氏）が質問した。玉城知事は、焼失した首里城の再建計画について、県議会の本会議で、各派を代表して、玉城知事（自民・山内典久氏）が質問した。

玉城知事は、焼失した首里城の再建計画について、県議会の本会議で、各派を代表して、玉城知事（自民・山内典久氏）が質問した。玉城知事は、焼失した首里城の再建計画について、県議会の本会議で、各派を代表して、玉城知事（自民・山内典久氏）が質問した。玉城知事は、焼失した首里城の再建計画について、県議会の本会議で、各派を代表して、玉城知事（自民・山内典久氏）が質問した。

玉城知事は、焼失した首里城の再建計画について、県議会の本会議で、各派を代表して、玉城知事（自民・山内典久氏）が質問した。玉城知事は、焼失した首里城の再建計画について、県議会の本会議で、各派を代表して、玉城知事（自民・山内典久氏）が質問した。玉城知事は、焼失した首里城の再建計画について、県議会の本会議で、各派を代表して、玉城知事（自民・山内典久氏）が質問した。

玉城知事は、焼失した首里城の再建計画について、県議会の本会議で、各派を代表して、玉城知事（自民・山内典久氏）が質問した。玉城知事は、焼失した首里城の再建計画について、県議会の本会議で、各派を代表して、玉城知事（自民・山内典久氏）が質問した。玉城知事は、焼失した首里城の再建計画について、県議会の本会議で、各派を代表して、玉城知事（自民・山内典久氏）が質問した。



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム

Okinawa Policy Research Forum of Japan

国連会 琉球臨時政府 加盟承認



圖 3 顯示，沖繩的農業基地的單位生產成本為 1.2 元/公斤，顯著低於日本其他地區的 1.5 元/公斤。這反映了沖繩的農業生產成本較低，這可能是由於沖繩的農業生產規模較小，且沖繩的農業生產成本較低，這可能是由於沖繩的農業生產規模較小，且沖繩的農業生產成本較低，這可能是由於沖繩的農業生產規模較小。

日米軍事同盟崩壊

普天間飛行場没収
徳之島移設も中止必至

[illegible]

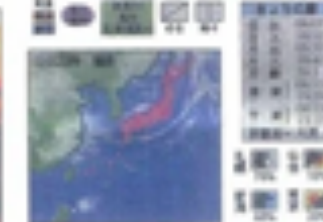
琉球ライブ in NY



RYUKYU TIMES
For Independence of Ryukyu Islands

号外 2010年(建球4年) 4月25日 星期日

発行所 株式会社ライムエッジ
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-2-1
電話 03-5561-0815
FAX 03-5561-0816
Eメール ryukyuetime@gmail.com
HP <http://www.ryukyuetime.co.jp>



「唐破風」という日本式建築

唐破風とは曲線を連ねた形状の破板を屋根付つけたもの。

【首里城】



【東大寺大仏殿】



首里城の瓦は黒かった

ブログ「目からウロコの琉球・沖縄史」
(琉球歴史研究家 上里隆史氏) 参照

＜首里城発掘で黒く加工された赤瓦発見＞

- ◎ 首里城の大奥に当たる御内原（おうちばる）という地点から、黒く塗られた赤瓦がいくつも見つかった。
- ◎ マンガンという黒色の鉱物がうわぐすり（釉）として塗られていた。

＜沖縄の瓦の歴史＞

- ◎ 琉球にはもともと赤瓦は存在していなかった。
- ◎ 高麗系瓦やヤマト系瓦など灰色や黒色の瓦しかなく、瓦自体もそれほど一般的ではなかった。
- ◎ 近世（江戸時代）以前は首里城の正殿は瓦ぶきではなく、ヤマト風の板ぶき屋根だった。
- ◎ 18世紀頃になると、琉球でも瓦ぶきの建物がどんどん造られていき、瓦を大量生産しなくてはならなくなり、手間ひまをかけて製造することができなくなった。
- ◎ その結果、丁寧に焼いて造られる灰色や黒色の瓦ではなく、コストのかからない赤瓦がたくさん造られた。
- ◎ 赤瓦は最初からそれを造ろうとして生まれたのではなく、粗製乱造の結果、生まれた。

＜赤瓦を黒く塗っていた理由＞

- ◎ 灰色・黒色の瓦しかそれまで存在していなかったため、赤瓦は当時の琉球の人々には非常に不恰好で粗悪なものに見えた。
- ◎ 困った人々は赤瓦をわざと黒く塗って、当時の人たちが考える「本来の瓦」のように見せかけたのではないかと考えられる。



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan

初代沖縄開発庁長官 山中貞則

首里城復元期成会葬散る30周年記念誌

「蘇った首里城」発刊を祝す

昭和四十四年十一月、ワシントンにおいての佐藤・ニクソン会談により、昭和四十七年五月に県民の永年の悲願となっていた祖国復帰が実現することになりました。私は昭和四十五年一月に、佐藤内閣の総理府総務長官に就任し、ひたすらに、沖縄の祖国復帰の準備作業に奔走致しました。また、沖縄が祖国に復帰すると同時に初代沖縄開発庁長官も努めました。

しかし、沖縄においては米軍の植民地政策によって、これといった社会資本の整備もなく、本土に比べ大幅に立ち遅れた社会資本の整備を積極的に推進する必要があることから、全国よりも高率の補助を適用して沖縄県民の所得の向上を図ることを目標とした沖縄振興開発特別措置法を制定するため努力をして参りました。

昭和四十五年五月二十二日に、復帰に向けての県民の要望を聴取するため、沖縄に参りました。琉球政府文化財保護委員会(委員長源武雄氏)との懇談会が東急ホテルで持たれました。その時、同委員会より、首里城復元計画の説明を受け、復元についての特許書が手渡されました。私はこの要請に対して、

「沖縄は去る大戦で我が国唯一の地上戦場となり、人的損害を被っただけでなく、首里城正岐をはじめ数々の国宝及び多くの文化財が戦災にあい壊滅したことを十分認識している。首里城正岐は沖縄最大の文化遺産であり、また沖縄文化の象徴であった。沖縄は日本のために尊い犠牲になったのであるから日本国民、日本政府としてその復元に力を貸すのは当然であり十分検討して見たい」とお答え致しました。

同年十一月十九日、佐藤内閣は第一次沖縄復帰対策要綱を発表、その中で首里城復元問題に関して、「沖縄の文化財の重要性にかんがみ、戦災文化財の復元修理保存を推進する」ことを明らかにしました。私が、首里城復元の予算を文部省の文化庁から大蔵省に要請させたところ、大蔵省は「文化財とは形のあるものを整備修復し保存すること、首里城正岐は影も形も無いのだから、文化財ではない」との理由で、文化庁の所管ではできないと言う回答でありました。

そこで私は総理府でこれを要求することを役人に指示しましたが、全員反対でありました。「では総理府総務長官たる山中貞則の要求として別途大蔵省に要求する」と言って予算要求書を提出させました。

そして、歓会門や久慶門、その間の城壁が復元されました。さらに、歴代の沖縄開発庁長官、とりわけ第五代植木光教長官が、熱心にそれを受け止めてくれました。昭和五十七年に首里城復元の推進のため、自由民主党の政調会の中の沖縄振興委員会に「沖縄戦災文化財復元等に関する小委員会」を作り、首里城復元のためのフォローをしてくれました。

南方同胞援会長 大浜信泉

(サンデーおきなわ昭和四十五年十二月五日号より)

完全復元したい首里城

去る五月沖縄を訪れ、ランパート高等弁務官と会食した際、首里城の正殿復元の話が出て、私の意見を求められた。高等弁無官は、歴史的遺産はできるだけ保存すべきものだと言明してウエストポイントの陸軍士官学校の校長時代に、ある建物をたてた際、立木を切りたおす話が出たが、多少位置をかえることによって木を切らずにすむものなら、そうしたいと主張して当初の計画を変更させたことがある。一本の木でも歴史の所産であるからできるだけ尊重すべきであるとの信念を披瀝され首里城正岐の復元の重要性を説かれたのであった。この復元事業にアメリカ側も協力する意図があるかどうかは聞かなかったが、是非実現したいものだ、と、むろん双手をあげて賛意を表しておいた。

その後沖縄の文化財保護委員長の源武雄氏から、綿密な調査に基づく復元計画と経費の見積りを伺ったが、経費の問題はさておき首里城跡は琉球大学の敷地になっており、校舎が立ち並んでいることが、この計画を進めるうえでの壁になっている。琉球大学はいずれ移転することが予定されているので、たとえ時間がかかるにしても、欲をいえば正岐ばかりでなく、首里城は沖縄の歴史的遺産の象徴としてその完たき姿に復元したいものである。

発刊：平成十五年七月十日



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan

「沖縄戦災文化財復元等に関する小委員会」の委員長の植木光教氏は首里城の整備復元の予算を大蔵省からどの様な名目でとるかと思案され、一つ妙案が浮かんだ。「沖縄県の復帰二〇周年記念事業として国営公園方式でやればいい。」この案を大蔵省に提出した所大蔵省から大きな抵抗が起きた。「沖縄県には祖国復帰記念として海洋博覧会記念公園が既にできており、今度また首里城公園をつくることは一つの県に二つの国営公園を作ることになり、それは出来ない。そう言う例はないし、それが前例になったら困る。」というのが大蔵省の言い分である。

この異議申し入れに植木氏は閉口したが、知恵を働かして考えたあげく、次の様なうるとらの級の妙案をおもいつかれた。「**先ず沖縄県には国営沖縄記念公園があつて、それが二つの地区に分かれる。一つは日本復帰を記念して海洋博覧会跡地に海洋博覧会記念公園、一つは復帰二〇周年を記念して首里城地区に首里城公園があると考えれば良い。**これなら**地域的にもバランスがとれる。**」

この構想のもと沖縄県では昭和六〇年三月に一「首里城公園基本調査委員会」を一設置して「首里杜(すいむい)構想」を同年五月までに策定して、沖縄開発庁はこの計画を申請した。そしてこの案は「沖縄戦災文化財復元等に関する小委員会」の植木光教委員長の元で検討され、同年六月一二日那覇市ハーバービューホテルにおいて「植木構想」として発表された。

首里城復元等首里城公園(仮称)に関する構想

- 一. 沖縄県が五月三一日に策定した首里杜構想に基づきその中核としての「首里城公園基本計画」を高く評価する。この計画の実現は、沖縄県民の悲願であるばかりでなく、日本国民全体の使命である。
- 二. 「首里城公園」を口号国営公園として整備する。(参考)口号公園とは「国家的な記念事業として、又は我が国固有の文化遺産の保存及び活用を図るため、閣議の決定を経て設置する都市計画施設である公園又は緑地」
- 三. 「首里城公園」は、沖縄県の本土復帰二〇周年記念事業として設置する。
- 四. 「首里城公園」は、「海洋博覧会公園」(仮称)のなかに位置づける。
- 五. 「首里城公園」は、「首里城公園」(仮称)のなかに位置づける。

(理由)

首里城は、歴史的にも地方文化の粹をこえた、琉球文化の象徴であり、戦前首里城正殿をはじめ幾多の国宝、文化財が存在し、沖縄県民はもとより、我が国の貴重な国民的文化遺産であった。しかしながら、太平洋戦争において首里城一帯は灰燼に帰し廢墟と化した。「首里城の復元なくしては、沖縄の戦後は終わらない。」と言う沖縄県民の悲願に応え、本土復帰二〇周年に最も相応しい事業として、国により「首里城公園」を整備しようとするものである。首里城復元期成会の30年の歩み従って、「首里城公園」は、本土復帰直後に開催された沖縄国際海洋博覧会とそれを記念する「海洋博覧会記念公園」を包括して「国営沖縄記念公園」(仮称)の中に位置づけることとする。



国営公園の種類

国営公園はその設置の趣旨から次の二つの種類に分けられます。
(都市公園法第2条第1項第2号)

- (イ) 一の都府県の区域を超えるような広域の見地から設置する都市計画施設である公園又は緑地。(口に該当するものを除く)(イ号国営公園)
- (ロ) 国家的な記念事業として、又は我が国固有の優れた文化的資産の保存及び活用を図るために閣議の決定を経て設置する都市計画施設である公園又は緑地。(ロ号国営公園)



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan



●イ号公園:一の都府県の区域を超えるような広域の見地から設置(12ヶ所)

○ロ号公園:国家的な記念事業又は我が国固有の優れた文化的資産の保存及び活用を図るために設置(5ヶ所)

琉球国の飢饉と首里城再建を支援した島津吉貴

【球陽の記録】

薩州太守、材木を寄賜して、以て宮殿の修造を補ふ。
先年、王城回祿し、將に宮殿を修造せんとす。而して材木欠乏す。今、疏文を具し、薩州に求買す。是れに由りて、薩州太守吉貴公、材木壹万九千五百二十五本を寄賜して、以て禁城宮殿の修造を補ふ。

(意訳) 去年、王城が火災で消失し、まさに宮殿を修繕しようとするが、材木が足りない。薩摩に買い求める。これにより薩摩藩主、吉貴公は、材木1万9525本を琉球国に寄賜し、宮殿修繕の助けとした。

薩州の太守、白銀を發賜して饑乏たる民人を濟ふ。
旧年の夏秋、颱風七次あり。十月に至りて、颱風最も暴し、国、大いに饑饉を致す。王、即ち倉廩を發し、周く人民を濟ふ。然れども、春に入り、饑甚だしく、民已に餓殍す。遂に其の事、薩州に聞ゆ。是れに由りて、薩州太守吉貴公、白銀二万兩を寄賜して、以て本国の餓口を賑濟せしむ。

(意訳) 夏から秋にかけて台風が7度にわたりやってきた。特に10月の台風は激しかった。国を飢饉が襲ったのだ。そのような中、11月25日午前2時。首里城が紅蓮(ぐれん)の炎に包まれた。この火災で南殿、北殿ともに跡形もなく灰になってしまったのだ。王は人民を救済するために蔵の米を放出するが、それでも足りず、3200人の餓死者を出してしまった。王府は薩摩の在番奉行の協力を得て、救援米の支援を要請するため飛船を出した。薩摩藩主島津吉貴が琉球に救援米3千石を貸与。続いて銀200貫を送り、続いて白銀2万兩を送った。

【江戸上り】

回次	年代 西暦(王号、中国元号、和暦)	国王	将軍	目的	正使	副使	派遣人数
7	1710年 (康寧、康熙49年、宝永7年)	尚益	徳川家宣	慶賀使 謝恩使	美里王子朝禎(尚紀) 豊見城王子朝匡(尚祐)	富盛親方盛富(翁自道) 与座親方安好(毛文傑)	168人
8	1714年 (甲午、康熙53年、正徳4年)	尚敬	徳川家継	慶賀使 謝恩使	与那城王子朝直(尚監) 金武王子朝祐(尚永恭)	知念親方朝上(向保嗣) 勝連親方盛祐(毛応鳳)	

江戸上りの与えた影響→新井白石:「南島史」、玉城朝薫:「組踊」

1709年の琉球は国難ともいえる不幸の連続だった。病床にあった尚貞王のために壇を設けて、除厄祈福のために経を七昼夜唱えたが、七月十三日に亡くなり、在位四十一年の長期政権が終わりを告げた。琉球は毎年のように、台風や干ばつに苦しんできているが、この年はとくにひどかった。台風はしばしば襲ってきて、それは夏から秋にかけて七次に及び、とくに十月の台風はもっとも激しいものであった。干ばつも深刻化した。田野は焼けたようになり、穀物類は皆、枯れ果てた。新穀は取れず、蓄えの穀物も底を突いた。民人は食を失い、山の草を採り、木皮を剥いて、日々の飢えをしのぐありさまになった、と『球陽』は記していきます。そのように飢饉が深刻化していく中、十一月十八日、尚益が即位します。ともかく、新王のもと、飢饉対策が進められつつあったとき、こんどは首里城が、紅蓮の炎に包まれ、炎上してしまうのです。十一月二十五日、丑時といいますが、午前二時前後のことです。再建して三十八年。瓦葺きとなつて、威容を誇ってきた首里城は、南殿、北殿とともに、跡形もなく灰になってしまったのです。人々は飢え、餓死者も続出していきます。冬末になると、山の食草・海の海藻類もなくなり、道端に飢え死にする者、数えれば、三千百九十九人。翌年の春、盗賊は四方にあらわれ、治安は乱れ、士民は節を失い、ひそかに人家に押し入っては器物を盗み、また道にひそんで通行人の衣食を奪うという、浅ましいありさまとなった……と『球陽』は記しています。世にいう「丑年の大飢饉」です。十三年前も同様な大飢饉がありました。〈子年の飢饉〉で、このときも大千ばつで食が尽き、疫病がまんえんして餓死者が続出したのでした。それをしのぐ惨状でした。それもこんどは首里城まで焼け落ちていきます。しかし、首里城をどうするかという前に、人民は飢え、餓死者はふくらんでいきます。首里城どころではありません。王府は各所に役人を派遣して穀物を集め、また、薩摩在番奉行の協力を得て、道の島々(奄美諸島)、薩摩に飛舟(飛脚舟)を出して、救援米を求めていきます。薩摩はとりあえず、救米三千石を琉球に貸与、また銀二百貫を送り、続いて白銀二万兩が送られてきます。首里城の再建も進んでいました。これは去年十月、向鳳彩(今帰仁按司朝季を総奉行として着工したのです。木材が不足して薩摩に支援を要請、薩摩からは、杉や檜など一万九千五百二十五本が送られてきました。(真琉球王統史十一)



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan

W OF FORMER KING'S CASTLE AT SHUNJI.
(行基親王宮ヒサア)





④

首里城正殿 大正14年国宝に指定された頃。基壇下に「特別保護建造物」の立札が見える。



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan

ANN
NEWS



焼失前の首里城の姿も
戦争時の空襲映像公開

1945年4月下旬～5月上旬頃の映像



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan

大正13年の首里城の取り壊しの危機を救った二人の恩人

鎌倉芳太郎



鎌倉が遺した写真なくして首里城再建は困難だったことはよく言われるが、それ以前にも一度、鎌倉は首里城を守っている。啓明会から補助金をもらって伊東忠太とともに沖縄の調査活動に乗り出した矢先の1923年(大正13年)3月末、鎌倉は当時残っていた首里城正殿が内務省により3日後に取り壊され、沖縄神社になるという新聞記事を見て驚愕し、文字通り伊東のもとに駆けつけた。

伊東忠太



1867～1954(慶応3. 10. 26～昭和29. 4. 7) 工学博士、日本建築史学の祖。山形県米沢市生まれ。1924年首里城や民家などを調査、琉球建築のすばらしさを評価、首里城正殿の国宝指定に尽力した。



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan



正殿背面の台風被害状況（阪谷撮影）。下はその状況を図示した「阪谷資料」

19



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan

地址： 香港中環皇后大道中 4 號
 電話： 2771 2322、2771 2323
 傳真： 2771 2324、2771 2325
 網址： www.hkma.gov.hk

2008年10月，蘇聯駐美大使羅曼諾夫在華盛頓與美國國務卿賴斯會晤，就兩國關係正常化問題交換意見。羅曼諾夫表示，蘇聯在冷戰期間對美國採取了強硬立場，但現在蘇聯已經改變了對外政策，希望與美國建立一種新的、平等的、互利的關係。他強調，蘇聯將致力於維護國際和平與穩定，並與美國在經濟、文化、科學等領域加強合作。賴斯對羅曼諾夫的講話表示歡迎，並表示美國也願意與蘇聯建立一種新的、平等的、互利的關係。她強調，美國將繼續致力於維護國際和平與穩定，並與蘇聯在經濟、文化、科學等領域加強合作。

【例 1】(2013 年 10 月 1 日) 某企业 2013 年 10 月 1 日购入一台设备, 入账价值为 100 万元, 预计使用寿命为 5 年, 预计净残值为 5 万元。按直线法计提折旧。2014 年 12 月 31 日计提折旧额为 () 万元。

【答案】B

【解析】2014 年 12 月 31 日计提折旧额 = (100 - 5) / 5 × 12 / 12 = 23 (万元)。

[illegible]

さかたにりょうのしん

阪谷良之進

(1883-1941)



「重要建造物調査研究を専門とした文部省文部技師。国宝建造物の補修調査に一生を捧げた。首里城正殿昭和の大修理(昭和8・1933年竣工)の際に来県、首里城のみならず県内重要建造物を調査、写真・図面など貴重な資料を残した。首里城修理に関しては社寺修理の第一人者・柳田菊造を沖縄に派遣、柳田の意見をよく聞き、新工法の採用、予算の獲得などに奔走して首里城の救世主にふさわしい働きをした。が、これまでその功績はほとんど知られていなかった。

やなぎだきくぞう

柳田菊造

(1887-1945)



奈良の宮大工の家系に生まれ、東京築地の工手学校で西洋建築の知識も得ている。文部省建築技師。明治後期、奈良の東大寺大仏殿、唐招提寺などの修理工事、その他、多くの社寺修理に携わり、社寺修理の権威とされた。昭和5年8月、阪谷良之進に登用されて首里城正殿昭和の大修理の工事監督として沖縄に滞在、困難な状況下で正殿の解体修理を完遂した。柳田も阪谷同様、首里城の工事状況、その他の建造物などを収めた貴重な写真(ガラス乾板)を残している。



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム

Okinawa Policy Research Forum of Japan



1879年に沖縄県が設置されると、最後の琉球国王だった尚泰は、他の藩主と同じように首里城を明け渡した。その後、09年に首里区（当時）の所有物となっても世間から見向きもされず、11年6月には地震や暴風が相次ぎ、正殿2階の天井が墜落するなど、廃虚にも等しい悲惨な状態をさらした。1923年9月、沖縄県は首里城正殿を取り壊すことを決定し、取り壊し式を24年4月7日に実施することになった。跡地に沖縄県社（沖縄神社）を建立する計画も立案された。

さかのぼること2年半前の21年4月、香川県出身の鎌倉芳太郎が沖縄女子師範学校の美術教師として赴任した。鎌倉は豊かな沖縄文化に惹かれ、2年の滞在で沖縄本島や宮古、八重山をくまなく歩く。そして、沖縄の芸術や文化、宗教に関する写真やスケッチなど大量な記録を残し、沖縄文化研究の第一人者と呼ばれるようになる。

東京に戻った鎌倉は23年3月、小石川にある沖縄県出身者の寮、明正塾を訪れた際、沖縄地元紙の「首里城取り壊し」の記事を見つける。取り壊し式が10日後に迫っていることを知った鎌倉はすぐさま明正塾を飛び出し、本郷の東京帝大に向かった。同大教授で建築家の伊東忠太に面会して、首里城の危機を訴えるためだ。伊東は日本最初の建築史家といわれ、神社建築の第一人者であり、古社寺保存の権威としてその名を轟（とどろ）かせていた。鎌倉の要請を受けた伊東はすぐに内務省神社局長の大海原（おおみはら）重義に中止を要請する。

大海原も伊東の働きかけには逆らえず、沖縄県庁に「首里城並びにその建造物は史跡名勝天然記念物に該当するので取り壊しならぬ」と中止命令を打電した。実際には、取り壊し式を待たずに作業が開始されており、既に瓦が外され始めたところだった。しかし、鎌倉と伊東の情熱と行動に支えられて、首里城は奇跡的にその命を守られたのだ。

1925年、首里城正殿は特別保護建造物、次いで旧国宝に指定され、沖縄神社拝殿として存続する。その後、修繕計画が立てられ、28年2月には昭和の大修理が始まった。

しかし、早くも30年ごろに工程2割で工事資金が底をついてしまい、手詰まり状態に陥った。7月には観測史上3位（当時）の台風が沖縄を襲い、那覇市では最大風速47メートルを記録する。首里城も大きな被害を免れず、工事も中止状態となった。再び危機に陥った首里城を救ったのが、文部省宗教局の阪谷良之進と同省建築技師の柳田菊蔵である。阪谷から沖縄への派遣の命を受けた柳田は現地到着後、被害状況の調査に入った。

そこで柳田が目にしたのは、屋根が台風で剥がれ、柱もシロアリの餌食にされた悲惨な首里城の姿だった。柳田は状況を手紙で報告するとともに、阪谷に素屋根（すやね）設置の必要性を訴えた。素屋根とは、建物をすっぽり覆う仮設物で、台風による再度の被害を避けられるだけでなく、木材を風雨に晒（さら）すこともないため、劣化や損失を防ぐことができる。最大のメリットは、工事が天候に左右されなくなるため、計画通りに工事を進められることだ。ただその分、高額な予算を必要とする。

阪谷も2月には自ら沖縄まで足を運び、滞在を延長して丹念に視察した。その結果、柳田の主張通り、素屋根を用いた工法でなければ、工事は完成できないと確信する。東京に戻った阪谷はすぐさま、工事費増額のために粉骨砕身の努力を始める。それからわずか数日後、柳田に打った電文には「工費は九八九〇〇円以内に収ること」とあり、ただし書きに「貴族院議員控室にて決定す」とあった。この予算は当時の首里市にほぼ匹敵する規模であり、文部省が行ったどの修理工事も超える額だった。しかも、台風が首里城を襲う前年の29年3月に国宝保存法が制定されたばかりで、文部省にとっては、この法律に基づいて修理しなければならない文化財が山積みだった。その中には、伊東により世界最古の木造建築物であると確認された法隆寺や、西の丸の櫓（やぐら）の一部が大雨で崩壊して早急な修理が必要だった姫路城があった。文部省は、これらの文化財より首里城の大修理を優先して予算をつけたのだ。

昭和の大修理では、各部材を実測し記録を取った上で解体し、修復してから組み立てるという気の遠くなる作業を繰り返した。それでも現場監督の柳田と文部省で監督指揮した阪谷のもとで、素屋根がかけられた正殿の修復は迅速に進んでいった。そして、再開からわずか1年9カ月後の33年9月23日、幾多の困難を乗り越えながらも、一人のけが人を出すことなく完成した。



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan

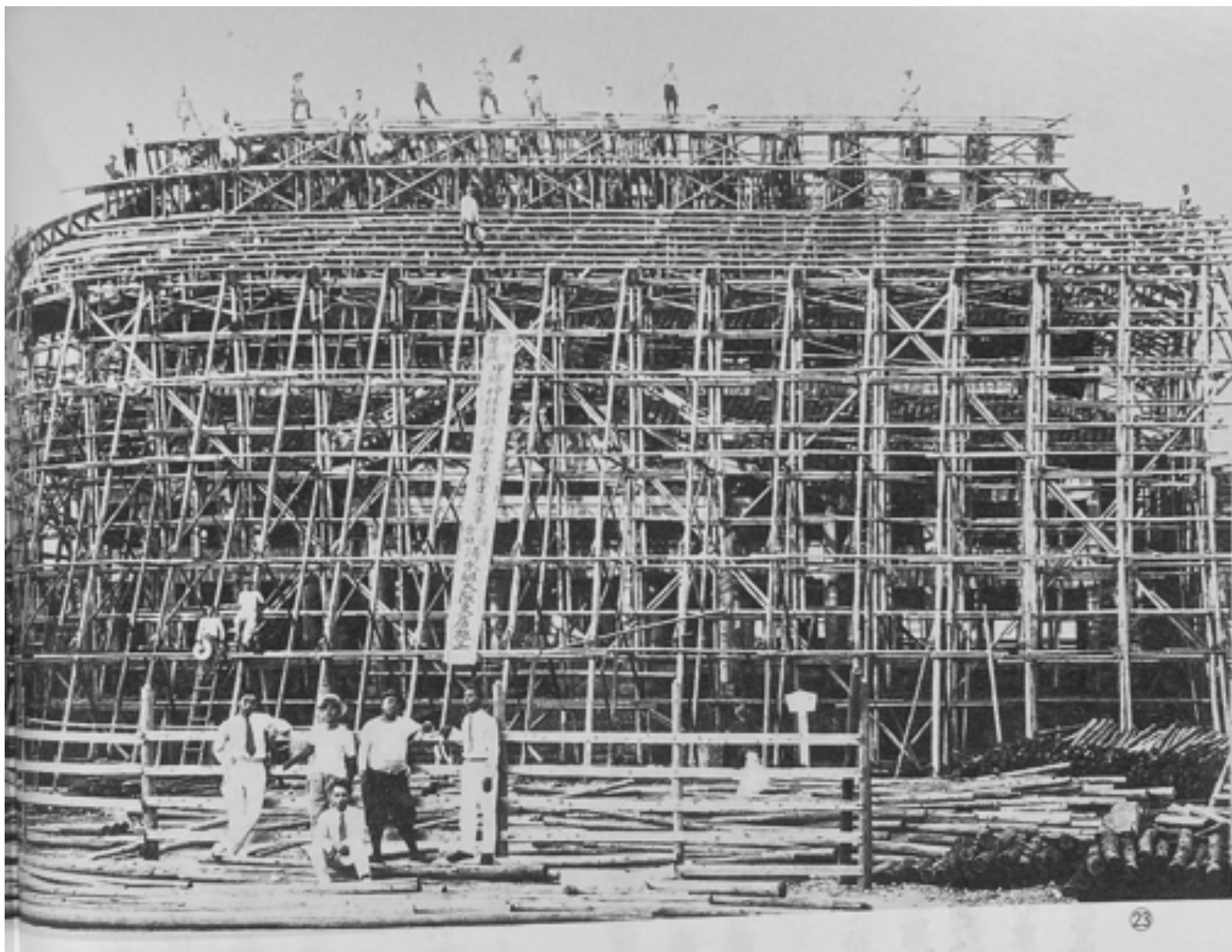
首里城昭和の大修理の年表(概略)

年月日	出来事
明治30年6月5日	「古社寺保存法」制定。同法による保護を社寺所有に限定、建造物は特別保護建造物とし、「由緒ある古社寺」に限定
昭和44年6月18日	首里城正殿二階部天井墜落(同月十五日の地震と当日の暴風雨による被害)
大正10年4月	鎌倉芳太郎、沖縄女子師範学校教師
大正13年3月28日	伊東忠太、「首里城並びにその建造物は史跡名勝天然記念物に該当するので取り壊し中止」の打電、首里城危機一髪で救われる。
大正13年7月	伊東忠太来沖、首里城の調査研究
昭和3年2月	「首里城正殿」修理工事着手。金七万円、主任・本山沖縄県建築技師
昭和5年7月17日	首里城、暴風により上層背面の瓦約四十坪にわたって墜落
昭和5年8月3日	柳田菊造技部、沖縄着任。七月二十一日付辞令、七月二十八日東京発、八月三日着
昭和5年11月18日	沖縄県学務部長から阪谷へ、素屋根一万二千円の建設費計上の申請
昭和6年2月4日	阪谷良之進、来沖。翌五日から首里城正殿修理工事並びに文化財建造物を視察。守礼門、歓会門、瑞泉門、白銀門、円覚寺など一九点を国宝の第一候補に絞る。
昭和6年12月11日	正殿修理工事再開
昭和7年1月25日	正殿素屋根設置工事開始
昭和7年3月25日	正殿素屋根設置工事完了
昭和8年9月23日	首里城正殿大修理工事竣工



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan

阪谷良之進の業績	年代	柳田菊造の業績
佐竹寺本堂（茨城県） 清台寺仏殿（山梨県） 金峯山寺本堂（奈良県） 法隆寺西院廻廊鐘樓、経樓（奈良県） 長岳寺五智堂（奈良県） 高鴨神社本殿（奈良県） 春日神社若宮細殿、御廊神楽所（奈良県） 石清水八幡宮廻廊（京都府） 宇太水分神社本殿（奈良県） 宇治神社本殿（京都府） 平等院観音堂（京都府） 三寶院純淨観（京都府）	明治四三年 ◇ 明治四四年 明治四五年 大正二年 ◇ 大正五年 大正六年 大正七年 ◇ 大正八年 大正九年 ◇ 大正一〇年 大正一一年 ◇	唐招提寺鼓樓修理（奈良県） 壬生寺庫裡改築（京都府） 鹿島神宮本殿修理（茨城県） 延命寺二階堂修理（福島県） 高蔵寺阿弥陀堂修理（宮城県） 興禪寺勅使門修理（長野県） 佐竹寺本堂修理（茨城県） 寛永寺五重塔修理（東京）
三寶院表書院（京都府） 松尾神社本殿拝所（京都府） 念仏寺本堂（京都府） 松尾神社本殿（京都府） 三寶院（京都府） 妙心寺庫裡（京都府） 久世神社本殿（京都府） 観智院客殿（京都府） 三寶院宸殿及庫裡（京都府） 本願寺能舞台（京都府） 智恩院多寶塔（京都府） 許波多神社本殿（京都府） 藤森神社末社（京都府） 醍醐寺金堂（京都府） 沖繩神社拝殿（首里城正殿）（沖繩県） 観音蔵寺本堂（京都府） 萬寿寺鐘樓（京都府） 東福寺浴室（京都府） 西宮戎神社本殿（兵庫県）	大正一二年 ◇ ◇ 大正一三年 ◇ 大正一四年 大正一五年 ◇ 昭和二年 ◇ 昭和三年 ◇ ◇ 昭和四年 ◇ ◇ 昭和五年 昭和六年 昭和八年 ◇ 昭和一〇年	沖繩神社拝殿（首里城正殿）修理（沖繩県） 白銀堂改築工事設計（沖繩県糸満市） 萬福寺本堂修理（鳥根県） 姫路城西の丸保存工事（兵庫県）



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan

旧国宝指定建造物（沖縄）一覧表

	所在	名称	種別	指定年月日	創建年代	備考
1	波上宮	朝鮮鐘	梵鐘	明治41年5月27日 (1908)	956年鋳造	日本最古の朝鮮鐘、戦災滅失
2		正殿	木造	大正14年4月24日 (1925)	1712年	戦災滅失、1992年復元
* 3	首里城	守礼門	木造	昭和8年1月23日 (1933)	1529年	戦災滅失、1958年復元
* 4		歓会門	門=石造 櫓=木造	○	1477年	戦災滅失、1974年10月復元
* 5		瑞泉門	門=石造 櫓=木造	○	1470年	戦災滅失、1992年復元
* 6		白銀門	石造	○	尚真王代	戦災滅失
* 7	円覚寺	総門	木造	○	1494年	戦災滅失、1968年復元
* 8		右掖門	石造	○	1494年	戦災滅失、1968年復元
* 9		左掖門	石造	○	1494年	戦災滅失、1968年一部復元
* 10		放生橋	石造	○	1498年	戦災損傷、1967年復旧
* 11		山門	木造	○	1494年	戦災滅失
* 12		仏殿	木造	○	1494年	戦災滅失
* 13		龍潭殿	木造	○	1494年	戦災滅失
* 14		鐘樓	木造	○	1494年	戦災滅失
* 15		獅子窟	木造	○	1494年	戦災滅失
* 16		総門	石造	○	1527年	戦災滅失、1953年復旧
17	崇元寺	右掖門	石造	○	1527年	戦災滅失、1953年復旧
18		左掖門	石造	○	1527年	戦災滅失、1953年復旧
19		第二門	木造	○	1527年	戦災滅失
* 20		正廟	木造	○	1527年	戦災滅失
* 21	園比屋武御嶽	石門	石造	○	1519年	一部戦災を受け1956年復元
* 22	末吉宮	本殿	木造	昭和11年9月18日 (1936)	1456年頃	一部戦災を受け1972年復元
* 23	神宮	本殿	木造	昭和13年7月4日 (1938)	1455年頃	戦災滅失
* 24	弁が嶽	石門	石造	昭和13年8月26日	1519年	戦災滅失

○ *印は阪谷良之進が国宝指定の第一候補としたもの

○ 1～24は「古社寺保存法」、3～24は「国宝保存法」による指定

参考資料 『沖縄県史』6／沖縄県立図書館所蔵「阪谷資料」



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan

阪谷良之進への追悼文

伊東忠太

吾等の最も尊敬する我国の国宝建造物を双肩に担い、その調査と保存に身命を捧げられた斯界（しかい）の重鎮阪谷良之進君が卒然として長逝せられたことは洵（まこと）に痛ましくも又悲しき極である。

君は東京美術学校を出られて直後、関野貞（だだし）博士の掖導の下に職を古社寺保存の事業に奉じ、奈良県技師、京都府技師に歴任して終に文部技師に任ぜられ、身を終る迄一意専心公務の為に奮闘された経歴は斯界（しかい）の均しく具瞻（ぐせん）する所である。

君は温良勤厚の資を以てして、しかも極めて堅い信念と頗る強い意志を持って居られ、同時に又篤い情誼（じょうぎ）を持って居られた。殊に職務に忠実であり勤勉であられたが、それは君の責任感の厳正なるが為である。君は一面に於て努めて学問の研鑽に精進し、他面に於て技術の練磨に熱中し、遂に倦むことを知られなかった。君は又一面に於て趣味の人であり、豊富なる余技や娯楽にも親しまれたが、これ即ち君の神氣転換の妙剤でもあった。

君の不断の過労が健康に禍したるや否は知らざるも、君は昭和十年病を得られたが暮年（きねん）にして快復された様である。併し病根は深く膏盲に潜入して居たのでもあろうか、爾来健康往日の如くならざるかに見えた。而も君の忍耐と努力は、朝はまだきに出て、夜は更たけて帰り、酷暑（こっかん）も烈暑も厭われなかった。私は昨年の春より君の健康の勝れざるを感ずるに至り、幾度となく切に静養を勧めたるも、君はその精神の力を以て病魔を克服すべしとの鞏固（きょうこ）なる信念を以て容易に私の勧告に応諾せられなかった。

昨年まだ秋風の立ちそめぬ頃より君漸く静養の必要を感ぜられ、身は鎌倉に起臥（きが）されつつも、心は東京の空に馳せて、片時も公務の事を忘れられず、為めに若干の無理を強行せられしこともありしと思わる。斯くて本年正月に入りて君の宿痼（しゆくあ）は俄然革（あらた）まり、正月四日逝去の悲報に接して私は万感に胸塞がり、言う所を知らぬのであった。

君は学徳一世に高き朗廬（ろうろう）先生を直系の祖父とし、政治経済界の最高権威芳郎男爵を叔父とせらる。その系統を享けられた日本古建築の良之進君である。天若し君に仮すに寿を以てせば、必ずや大成せらるるに庶幾かるべきに、嗟、未だ還暦にだも達せられずして長逝せられたるは何たる恨事ぞや。

遮莫（さもあらばあれ）君は我国古建築の調査及保存事業の為に一身を犠牲に供し、国家の為に日本古文化闡明（せんめい）と古芸術宣揚の具体的資料を集成され、同時に多数の有能なる後進を養育されたので、昨年末君が病の故を以て職を辞せらるるや、国家は君の勲功を勅して最高の特典を与えられた。君また以て瞑すべきであろう。

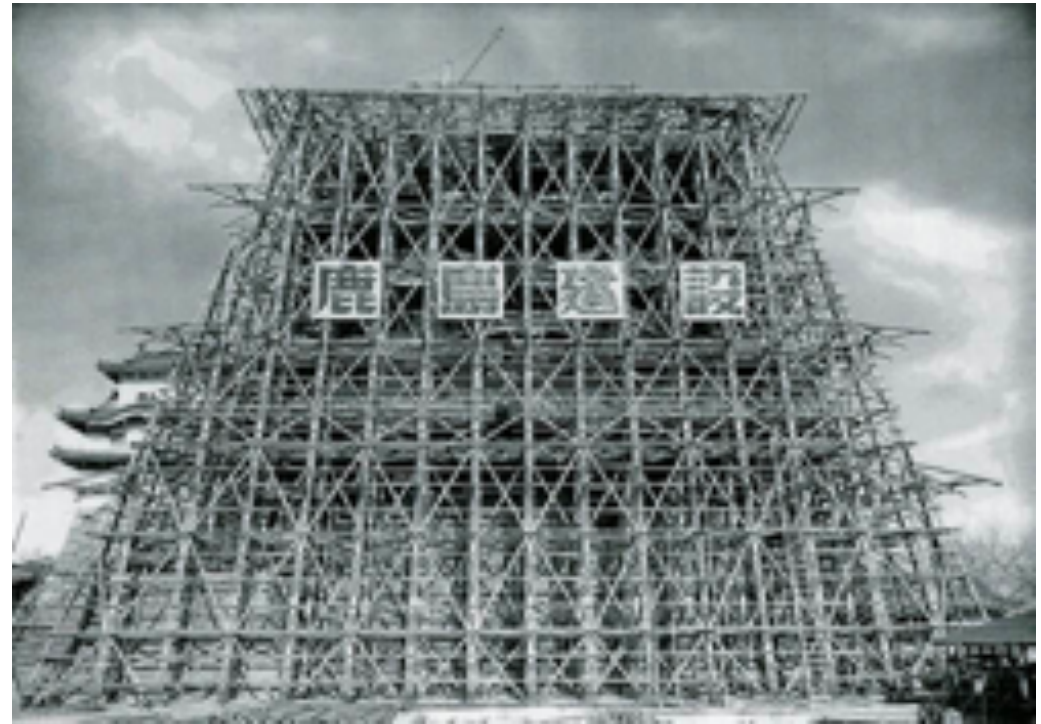
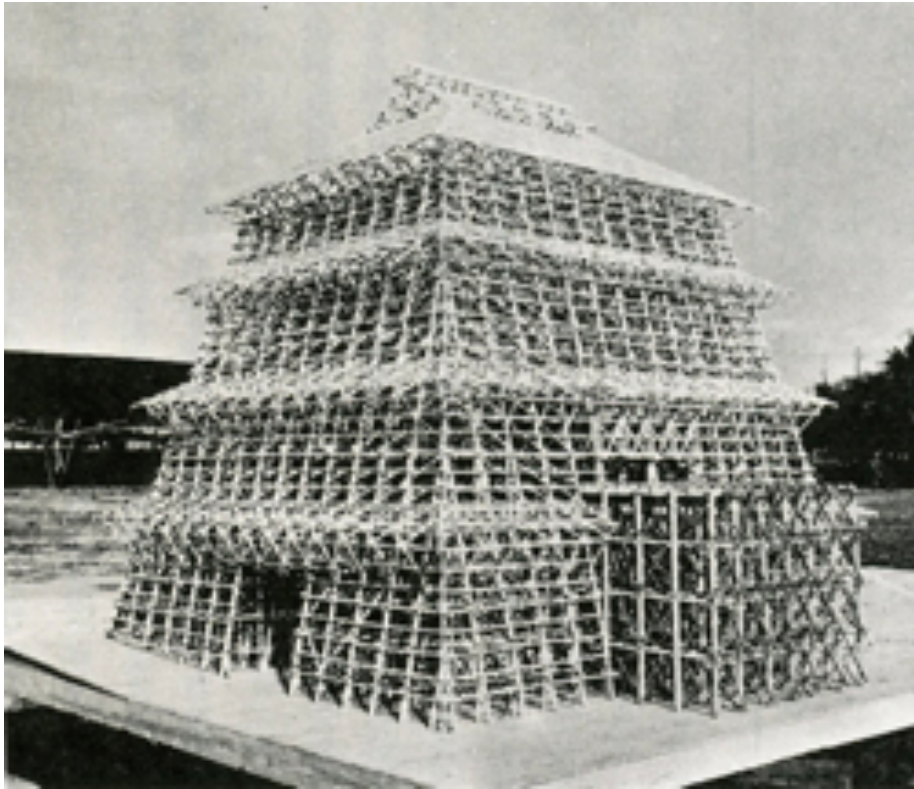
嗚呼、吾等は今や君と永久に別れ、君が常に諄々（じゅんじゅん）として専門的問題に就て侃諤（かんがく）の論を吐き、孜孜（しし）として山積の事務を処理せらるる真剣の態度、時に怡々（いい）として歓談に労苦を忘れられた温容は、復見することは出来ぬが、吾等の脳裡に刻（こく）せられた印象は髣髴（ほうふつ）として永く消滅しないのである。（了）



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan

姫路城の復元工事の素屋根



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan

2010年12月



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan

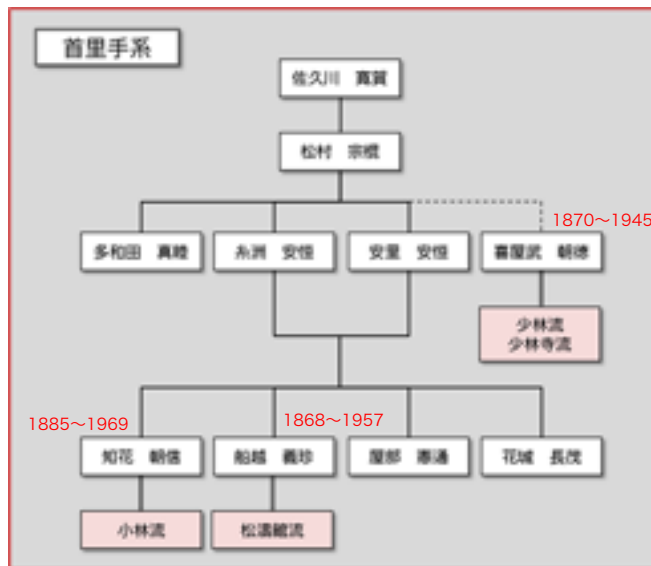
姫路城 平成の大修理中(素屋根内部から見る天守閣)



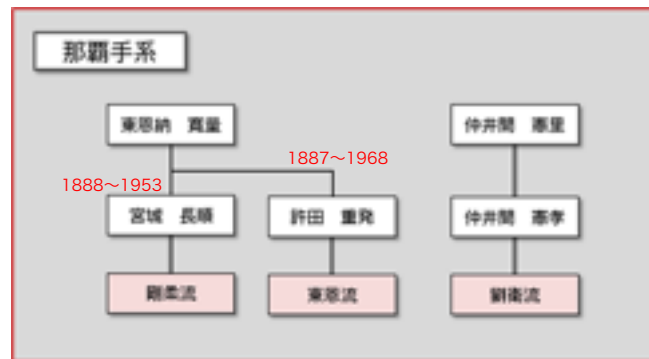
一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan

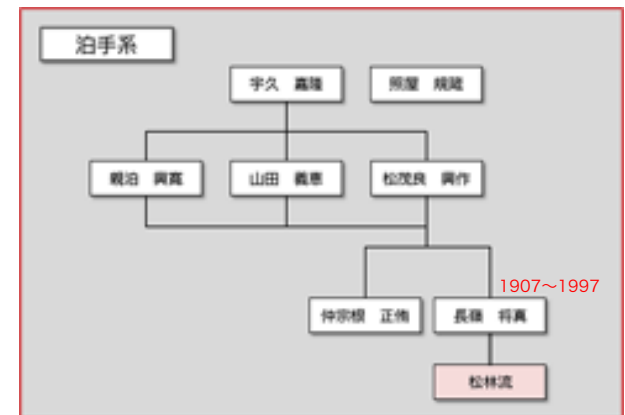
沖縄空手の流派



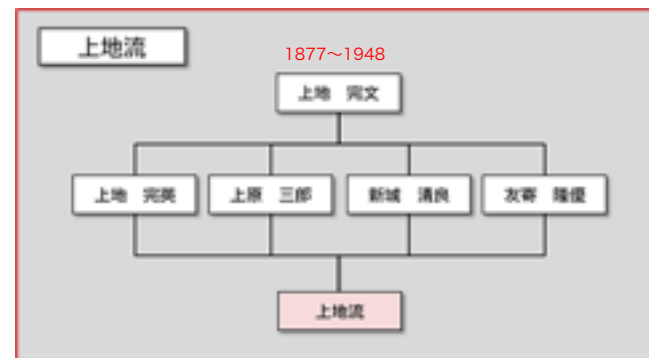
首里手系は政治の中心であった首里の「士（サムレー）」たちによって受け継がれた武術です。佐久川寛賀から松村宗棍へと受け継がれ、宗棍から糸洲安恒、安里安恒、多和田真睦、喜屋武朝徳へ継承されました。その系譜は小林流の知花朝信、松濤館流の船越（富名腰）義珍、屋部憲通、花城長茂、徳田安文、城間真繁などへ受け継がれました。喜屋武朝徳系から少林流・少林寺流が派生しました。



那覇は海外への玄関口として古くから開けた商業都市でした。福州との関係も深く、久米村（クニダ）は福州を中心にした中国系渡来人の居住区でした。このような環境下で生れたのが那覇手です。その系譜は東恩納寛量から剛柔流開祖宮城長順へと受け継がれました。これとは別に仲井間家に代々伝承された劉衛流があります。



泊手系は宇久嘉隆と照屋規箴が元祖と言われています。嘉隆と規箴から親泊興寛、山田義恵、松茂良興作など泊地方の「士（サムレー）」たちによって受け継がれた武術で、松茂良興作に代表されます。その系譜から長嶺将真を開祖とする松林流が派生しました。また、少林流系に多大な影響を与えた喜屋武朝徳も泊手を継承しています。



開祖は上地完文です。1909（明治42）年に、13年の福州での修業及び指導者として活躍したのち帰国しました。1926（大正15）年から和歌山での指導を皮切りに、多くの門弟を育成しました。「サンチン」を主とした厳しい鍛錬法で知られています。子息の完英は完文が伝えた三つの型と鍛錬法に、完文の高弟たちと五つの型を考案し上地流空手を完成させました。



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan

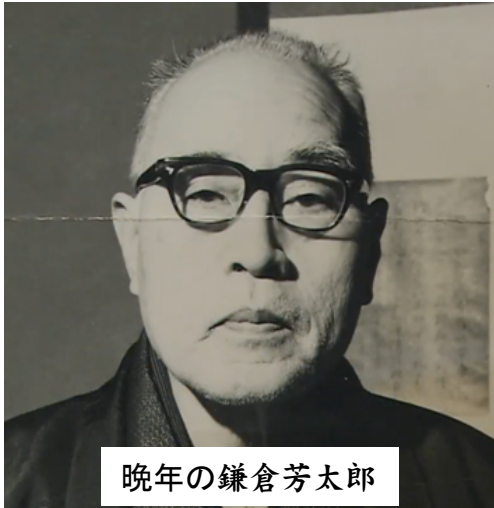
首里城正殿復興再現の意義

鎌倉芳太郎

「沖縄の文化財」昭和四十六年六月三十日第二号

これは沖縄百万人のためではない。また日本人一億人のためでもない。それは人類が地球上に顕現した偉大なる文化の遺芳として後世に伝えなければならぬ国際的使命感に基づくものである。ナイルのダムによって水底に没し去られようとした古代エジプトの王墓の文化遺構は、人類文化と尊重する世界各国の人々の協力によって、これをその上方地上に移転することに成功した。これは一地域の経済や損得の問題とは全く別箇の立場でエジプトの古代文化が地上に保存せられた例証である。今次大戦においても、本土の京都や奈良の古文化財は、アメリカの有識者(ウオーナー博士等)によって戦禍を受けることなく保存され、守備された。しかるに不幸にして琉球王国時代の首都も戦場となり、首里城正殿その他国宝指定の数々の文化財並みにこれに準ずる文化財もすべて焼失してしまった。そしてアメリカ軍進駐後は、首里王宮の位置にコンクリートの琉球大学校舎が次々に建てられ、戦後はじめて訪れた私は、この状況を見た、首里城正殿は復興し再建しなければならぬ。さて、いかにしてこの問題を進めなければならぬか。戦後二十六年、那覇市及びその周辺の復興はすばらしく、近代的都市の造営は驚異的に進行しつつある。ところがかんぬきが一本ぬけていると思われるところは、戦前までの首里城は、うっそうとした樹林に囲まれ、幾重にも囲まれた城壁による水そう的設備によってそこは水源地となり、龍潭の水は地下水となって地面深く貯蔵されまた泉となって流れ出していた。大中方面の高台地でも、三メートル位下には良質の地下水があった。首里に古くから酒造業が栄えたのも、この良質の地下水があったからである。この多量の地下水の確保は、尚巴志王の首里城造営に創まり、尚真王の中央集権と首里の都市計画時代に、さらに城壁を拡張し、また城外円覚寺、弁財天堂方面の谷を小ダム式に整備完成したと思われる。首里城正殿とは、その都市計画の上に建っていた琉球王国の象徴的代表建造物であった。琉球王国は、十四世紀から十六世紀に至る頃は、大陸明(みん)政府のひ護により東洋海域における商権国として、琉球貿易船は、南はマラッカ海峡方面では印度洋を制していたアラビヤ人(回教)(サラセン)に接し、北は日本海、瀬戸内海、伊勢湾方面にも進出していたといわれ、当時首里城白銀門内に多量の金銀を貯蔵しその財力によって、さうごしよう上首里城正殿を中心とする高慶な文化的建造物が数多く造営された。これはギリシャにおいても財力によって不毛の海岸岩石上に古典文化が花開いたことと同様に見られる。これは地球上において人類の到達した数少ない高度な文化的業績として賞賛され記念されなければならない。そして明治廃藩にいたるまでの琉球王国はその延長であった。即ち、これが国際的文化的視野において、首里城正殿が復興され、再現されなければならないとする根本的理由である。それと同時に首里城を緑化し出来うる限りこれを水源地化し、水道の水が不足する時があっても、地下水によって那覇市だけでも自活して欲しいと思う。

首里城正殿修理の際の設計図は今も文部省文化庁に保存されている。これによって元のままに再建することは可能である。ここに源武雄氏を委員長とする琉球政府文化財保護委員会はその実現に一步を進めている。今や本土復帰を記念して、これが平和を理想とする建造物として再建されるならば、本土はもとよりアメリカを初めとして世界各国の同志もこれに賛助するであろう。そしてこれはアジア平和の礎石となることを信ずるものである。



晩年の鎌倉芳太郎



一般社団法人

日本沖縄政策研究フォーラム
Okinawa Policy Research Forum of Japan